

首都高速道路は27日、フューチャーイノベーションフォーラム（F1F）と共同企画・運営した職業体験プログラム「首都高の最前線」を開催した。小学5・6年生140人の応募の中から抽選で選ばれた17人が参加。子どもを対象とした職業体験事業は初の試みとなり、道路点検作業の体験や同社の橋本圭一郎代表取締役会長兼社長との意見交換などを行った。

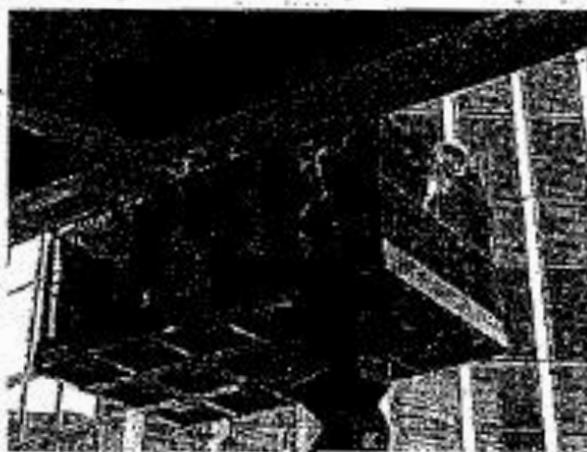
今回の体験内容は定期的もしくは対外的に行う点検作業。中でも目玉となったのは、クレーンを用いた高所での橋梁点検。実際の道路（三宅坂ジャンクション）を使用し、ハンマーで叩いた音の違いによって傷の有無を確認した二写真。

そのほか、設計確認などを目的とした鉄筋検査法、鋼材のきずを察知するための超音波探傷試験

## 初の子供向け職業体験

### 高所での点検作業も

首都高



磁粉探傷試験などが体験内容に準備されており、参加した子どもたちは普段目に見えない作業に強い興味を示していた。

意見交換の場では、「渋滞対策はこうしているか」「地震にはどう対応しているのか」「（会社の）未来像は」などの質問が寄せられた。橋本社長はこれらに答え、「あと50年、100年後も引き続き首都圏の交通の中心でありたいと思っている。壊れている部分は修復しながら次世代に引き継ぎたい」とメッセージを送った。

プログラムを終え、挨拶したF1Fの金丸恭文代表は、「同業の目的を、かっこいい大人が働いている現場を見てもうためなもの」と説明し、「今日体験したことを通じて、かっこいい日本を担う人になってほしい」と語った。